

(佐那武兩社は、今の大野湊神社即ち佐那武明神の鎮座する境内の舊祠神明・八幡を指していふなるべし) 倉部橋三は石川郡倉部の人なるべし) 十月。能登の士得江石王丸代長野光信、近江に於ける軍忠を具申して桃井義綱の證判を求む。

【得江文書】

三九四

得江石王丸代長野左衛門四郎光信申軍忠事

右今年觀應八月十八日、兩御所御下向江州之間、能州守

護桃井兵部大輔殿被供奉申訖。而北國凶徒等、取陣江州

八重山之間、同九月十二日屬兵部大輔殿御手、責登八重

山西中尾、致合戰忠節、同十月十四日至于兩御所御入洛

御共仕訖。然早賜御證判、爲備向後龜鏡、言上如件。

觀應二年十月一日

承了 在判

正平七年

觀應三年

文和元年

壬辰三月十一日再始 紀元二〇一二 九月廿七日 改元

正月十一日。前右兵衛督、鳳至郡總持寺に、その敷地を安堵せしむ。

【總持寺文書】 鳳至郡

三九五

能登國樞比御厨之内惣持寺敷地事、宣旨狀并中院中納言家任國宣之旨、知行不可有相違之狀如件。

正平七年正月十一日

前右兵衛督 在判

正月廿四日。石川郡白山宮莊嚴講勸進、明日を以て東光坊に講衆を招集す。

【白山宮莊嚴講中記録背文書】

三九六

明日午刻於東光坊

可有御集來矣

見聞

立政權律師奉

貞澄權律師奉

幸海權律師奉

善耀權律師奉

承覺權律師奉

一運大德奉

連海大德奉

詮乘大德奉

禪俊大德奉 豪運大德奉 右依恒例所唱如件。

觀應三年正月廿四日

勸進 禪

二月七日。足利尊氏、能登の士得田素章に、味方に黨せば本領を安堵せしめんことを告ぐ。

【得田文書】

三九七

參御方致忠節者、本知行之地不可有相違之狀如件。

正平七年二月七日

得田次郎左衛門入道殿

二月十三日。刑部權少輔、山城東福寺領江沼郡熊坂莊に兵糧米等の濫妨を停む。

【東福寺文書】 山城

三九八

在判

東福寺領加賀國熊坂莊事 右於當寺領者、令停止兵糧米以下煩、就諸事於致濫妨狼藉之輩者、可被行罪科由、依仰執達如件。

正平七年二月十三日

刑部權少輔 奉

二月十六日。後村上天皇、山城臨川寺領加賀郡大野莊地頭職を他所に替へしめ給ふ。

【臨川寺文書】 山城

三九九

甲斐國牧庄號高橋庄東方道蓋跡、除惠林寺領、爲當知行之地内加賀國大野庄地頭職替、可被管領者、天氣如此、仍執達如件。

正平七年二月十六日

勸解由次官 在判

二月十六日。後村上天皇、山城臨川寺に加賀郡大野莊領家職を安堵せしめ給ふ。

【臨川寺文書】 山城

四〇〇

加賀國大野庄領家職、知行不可有相違者、天氣如此、仍執達如件。

正平七年二月十六日

勸解由次官 在判

二月十七日。後村上天皇、山城南禪寺に能美郡得橋郷及び石川郡笠間東保等を安堵せしめ給ふ。

【臨川寺文書】 山城

四〇〇

加賀國大野庄領家職、知行不可有相違者、天氣如此、仍執達如件。

正平七年二月十六日

勸解由次官 在判

二月十七日。後村上天皇、山城南禪寺に能美郡得橋郷及び石川郡笠間東保等を安堵せしめ給ふ。

【臨川寺文書】 山城

四〇〇

加賀國大野庄領家職、知行不可有相違者、天氣如此、仍執達如件。

正平七年二月十六日

勸解由次官 在判

二月十七日。後村上天皇、山城南禪寺に能美郡得橋郷及び石川郡笠間東保等を安堵せしめ給ふ。

【臨川寺文書】 山城

四〇〇

加賀國大野庄領家職、知行不可有相違者、天氣如此、仍執達如件。

正平七年二月十六日

勸解由次官 在判

二月十七日。後村上天皇、山城南禪寺に能美郡得橋郷及び石川郡笠間東保等を安堵せしめ給ふ。

【臨川寺文書】 山城

四〇〇

加賀國大野庄領家職、知行不可有相違者、天氣如此、仍執達如件。

正平七年二月十六日

勸解由次官 在判

二月十七日。後村上天皇、山城南禪寺に能美郡得橋郷及び石川郡笠間東保等を安堵せしめ給ふ。

【臨川寺文書】 山城

四〇〇